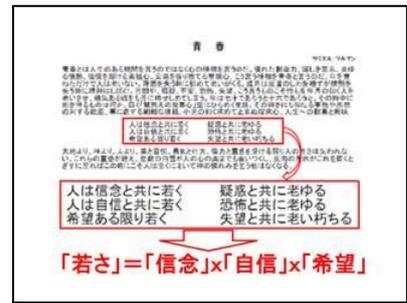


今さら聞けない#93・・・「第3の青春」

1. 「青春」

右掲は、サミュエル・ウルマンの「青春」という詩から、私が「若さ」＝「信念」x「自信」x「希望」と公式化していることを表しています。これは、作者が「青春とは肉体の若さではなく精神の若さだ」と言っており、□の部分で重要な3要素を書いており、それをクローズアップして、さらにピックアップしています。

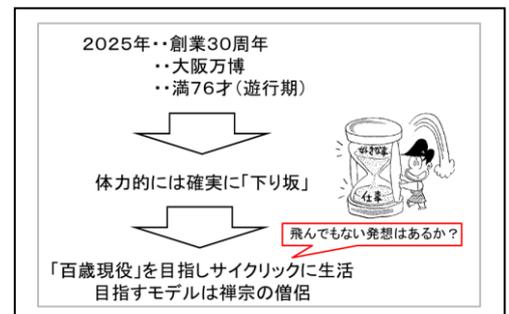


実は、私自身は昭和24年生まれなので満76才の歴とした後期高齢者です。そして、昨年7月に三男に事業承継して相談役になり、第一線から離れ始めていて社会から乖離し始めていると感じるのです。「生きる喜び」と言いますが、集中する時間が少なくなり時間経過がスローに感じるようになっています。「信念」も「自信」もありますが、今まで仕事を通じて得ていた「集中」するモノが消えて、一日のコアな部分が薄れて肝腎の「希望」という点が危うくなっているのです。

つまり、長年、仕事中心の世界観で過ごして来たので「自分」＝「仕事」+ α と表すと α の部分がドンドン小さくなっているのです。若い時はゴルフやドライブなどがあったので良かったですが、近年はそれらが無くなり α の部分が皆無の状態なので「自分」＝「仕事」 \div 「ゼロ」という状況になっています。ホンマに、毎日の充実度が低下して来ていると実感しているのです。お陰様で事務所は自宅から直線で500m程なので、毎日、出勤していますが、例えば、朝9時～11時と午後2時から5時と時短して調整をしようとしています、それでも時間を持て余し傾向になっています。前号で「推敲」と書きましたが、文書などの質的向上の為に時間を使おうとしています、これにも限度があるのです。

2. 「 α 」＝「地域社会」

右掲は2019年7月中小企業家同友会の支部例会で発表した資料の一部です。事業承継後の生活スタイルについて課題を掲げています。満76才になり『体力的には確実に「下り坂」』と課題を明確化して、さらに『「百歳現役」を目指しサイクリックに生活』と具体化して、「目指すモデルは禅宗の僧侶」とイメージ化しています。その上で「飛んでもない発想はあるか?」と書いています。



イラストは女性が「好きな事」＝「仕事」という砂時計を笑顔で反復する様子を描いたものですが、仕事が減って行くので「好きな事」が減っている、それを補う「 α 」を見つける事がポイントになります。去年の今頃は、自動車を廃車して6段変速の自転車を購入して、行動範囲を広げ、自動車では行けなかった街のお店を開拓して楽しんでいました。毎週土曜日に食材や仏壇のお花の買い出しを兼ねているので、ある程度コースに制約があり、その範囲内で6店を見つけてローテーションしながら買い出しを行なうスタイルになっています。つまり、行動範囲内では「効用逓減の法則」のように新しい発見という喜びがなくマンネリ化になりつつあります。

「若さ」＝「信念」x「自信」x「希望」というサミュエル・ウルマンの詩「青春」の公式から見ると「希望」が欠けているのです。「百歳現役」という大看板を目標にするには、本当の意味で「飛んでもない発想」が必要になります。私は「健康」＝「運動」x「食事」x「社会」と公式化していますが、「社会」つまり地域社会も選択肢の一つです。幸いにも、去年は立体駐車場の解体で集中することが出来たが、今年は、解体が終わって跡地の問題を解決しますが、幸いにも輪番でマンション管理組合の理事長になったので、双方が満足する解を見つけることが当面の「 α 」になっています。

3. 「青春」＝「充実した時間」

私自身を振り返ると「青春」は2回あったと思っています。浪人して予備校へ通う環状線で向かい側に座った大学生が「FORTRAN」と書いた本を読んでいた事に気が惹かれたのです。無事に関西学院大学商学部に進学し、偶然にも理系の私に向く西治先生の「ORゼミ」に入ることができ、さらに、4年の6月に理学部が有料でコンピュータ講座を開催してくれてFORTRANと再会したのです。7月8月は夏休みなのですが、理学部の講師の方がコンピュータを使えると言ってきて、正規分布とポアソン分布の乱数表を利用する在庫と販売の推移をシミュレーションするプログラムを作り卒業論文にしたのです。

就職は2年の時に腎臓を患っていたので大手企業の試験は合格しても面接などで叶わなかったのも、「逆転の発想」で不人気の自動車販売店に「コンピュータをやりたい」と言って飛び込み、運よく故福井社長を出会ったのです。昭和48年（'73年）に入社して、当時は超インフレで給料が毎年大幅に上がる時代だが、排ガス規制やオイルショックで自動車販売が低迷している状況下で、「コンピュータ」を唱え続けてトヨタや社内が反対する中、「これならワシのポケットマネーで買ってやる」と世界初のオフコンを購入して頂き「クルマが売れるコンピュータ」という永遠のミッションを頂き約20年間、コンピュータを中心に没頭しました。これが「**第1の青春**」です。

しかし、諸事情から一旦関連会社に勤務した時に、船井総研の客員経営コンサルタント養成学校に出会い「船井流」の資格を得て平成7年（'95年）起業して、紆余曲折があったものの30年経営を続け、無事に三男に承継することが出来ました。この30年も没頭の時代だったので「**第2の青春**」を過ごすことが出来ました。

お蔭様で孫にも恵まれて傍目には充実した状況ですが、前項で書いたように、老いていく中で「集中」するものを見つけ出し「充実した時間」を過ごす「第3の青春」を築きたいのですが、肝腎の「希望」という大きな課題が欠如しているのです。前項では「地域」という点で貢献するイメージを書きましたが、これは長いスパンで持続するには難しいと思っています。

4. 孫から得た「飛んでもない発想」

私は、毎年、正月に家族会を開いており、京都の長男家族、東京の次男家族、そして、大阪の三男（現社長）と例えば「がんこ桃谷店」で会食したりして来ましたが、コロナ禍でZOOM開催に変わりましたが何とか続けています。画面越しだが、中2、中2、小5、小4の男の子が成長する様子に接して、彼らと同じように「希望」を見つける必要に気付いたのです。

「若さ」＝「信念」x「自信」x「希望」という3要素の中では「信念」と「自信」は十分に備わっていると思いますので、この2要素を活かして世の中に貢献して読者の方々に「希望」を持って頂くと閃いたのです。大それた「**飛んでもない発想**」と言えます。幸いにも、お客様向けに「AMIニュース」、新規向けに「MMQC（もっと儲かる業務改善）通信」を発行しており約7千件を毎週送信しています。現在、両方に「栩野正喜の勁草塾」を連載していますが、3月に「AMIニュース」が1000号に到達する機会にスクラップ&ビルドして「勁草塾」を中心にして読者の方々にヒントを届けるようにして「変革」のキッカケになればと思っています。

若い人たちは時流を追いかけますが、人の世なので私が持っている経験が役立つ普遍性を持っていると確信しています。情報過多の時代ですが、微力ながら「不踰矩」の心構えで発信したいと準備しています。「不易流行」というように「守るべきものは守り、その上で時流に合わせて行く」の原則を大切にしながら「勁草塾」を展開したいと思っています。サミュエル・ウルマンの詩「青春」の3要素のうち「信念」と「自信」を大切にして、その経験を活かして「希望」を見出して行きたいと考えています。お蔭様でメルマガは開封やクリックなどの状況が分かるので、誰がどんな事に関心を持ってくれたかを理解しながら記事を書く事が出来るので全くの一方通行でないという点で「喜び」を感じながら連載を続けたいと考えています。